



大いちょう

令和元年 5月31日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和元年度 No. 3 048 (829) 2737

失敗を糧にするのも・・・

校長 並木 昌和

紫陽花の花が咲き始め、間もなく梅雨に入ります。

明治時代に日本に来て「大森貝塚」を発見したモース（アメリカの動物学者）が私たち日本人の美点（よいところ）を、「自然への愛、あっさりとして魅力に富む芸術、挙動の礼儀正しき、他人の感情についての思いやり、・・・」などと言っています。

言い換えると、草木をはじめとした自然を大切にし、機能的で美しい絵や伝統的な彫刻などがあり、あいさつやお礼のことば、ごめんなさいといった謝罪のことばを素直に口にすることができること、人の嫌がることを言わない・やらない といった意味になるのでしょうか。また、あるテレビ番組では約束を守って行動していること、例えば並んでいても割り込みをしない、信号を守るといったことも、よいことだと伝えていました。私たちが当たり前だと思っていることを、改めて外国の方から褒められると少し心がくすぐったい思いがします。

6月は「いじめ撲滅強化月間」です。市内のどの学級でも子どもの発達段階に応じて、いじめをなくすためにどのようにしていこうかと話し合いがなされ、具体的な行動目標が決められることとなります。子どもたちが自分たちの目線で、“他人事”ではなく“自分事”としていじめ撲滅について考え、取り組むことに価値があります。

何気ない一言で傷つく友達がいること、傷つけていることに気が付かないで過ごしてしまうことがあること、つらい思いは我慢する必要のないこと、誤りは素直に認めること等、子どもたちに重ねて伝えていきたいと思います。

記憶が曖昧になっていますが・・・、私は、小学校の時、友達の家で母親に連れられて謝りにいったことがあります。一緒に遊んでいて何らかのトラブル（又はけがをさせた？）があったのだと思います。当時自分では何がいけなかったのかわからなかったのですが、客観的に大人目から見ると私がいけないことをしたのだと思います。母親が頭を下げて謝罪している姿を見るのは辛いものでしたが、母親に再びこのようなことをさせてはならないという気持ちになったものです。

人間は完璧ではありません。失敗もあります。意に反して相手の気分を害してしまうこともあります。子どもならなおさらです。事實は素直に認め、謝り、次にどうするかを考えて行動することが大切なことだと思います。